



『トクシマ・アンツアイガー』

第 11 号

徳島 1915 年 6 月 13 日

ドイツ植民地の守備隊

戦争が始まるか始まらないうちに、敵によってわれわれのアフリカと南洋の植民地と本国との電信が遮断された。

しばらくしてやっとさまざまな報告がドイツに届いてきたが、今の状況は次のとおりである。

南洋とトーゴの要塞は敵の手に落ちた。南洋は日本軍によってであり、トーゴはイギリス軍によってだった。これらの植民地はすべて無防備で、そこではわが方のわずかな有色人の警察隊が置かれているだけだった。

その他のアフリカの植民地であるカメルーンやドイツ領南西アフリカ、ドイツ領東アフリカには帝国植民地守備隊があり、こちらではこの地域を攻撃したイギリス軍とフランス軍はとても頑強な反撃にあった。

カメルーンからの情報はごくわずかである。判っているのは、わが軍が

海岸を放棄せざるをえなかったということだけである。同じ頃フランスは仏領トーゴから軍を進めた。現在まだ内陸部で、領土を守るための激しい戦いが行われている。こうした戦闘がドイツ軍から見てどうなっているのかは不明である。

ドイツ領南西アフリカでは、わが守備隊がまず自分の方からケープ植民地に果敢に進撃したので、イギリス軍は海岸と南アフリカから侵入してきている。けれどもそこではイギリス軍はかなり優勢だったので、わが軍は内陸部に後退せざるをえなかった。この戦闘で、こちらの守備隊の司令官が負傷し後に亡くなった。司令官の後任にはフランケ少佐が任命され、同時に中佐に昇進したが、この人は現地人たちの反乱の頃にすでに大尉として非常に傑出したはたらきを見せていた。彼を得ることで隊は、土地をよく知っているきわめて行動力のある有能なリーダーを手に入れた。したがってわれわれは、彼に任しておけば間違いなく攻撃側に手痛い損失を与えうるといっはっきりした希望を持てたし、実際に彼が相手の大きな優位によって内陸に押し込められたのかどうか、あるいは彼が成功へのより大きな見込みをもって攻撃しうるような地域に、敵を誘いこもうとしているだけなのか、そのどちらであるのかをわれわれは待てばよい。いずれにしてもドイツ軍はより新たなイギリスからの情報によれば、首都のヴィントフクから撤退したということだ。

ドイツ領東アフリカでは、われわれの武器は大変な成果を挙げた。戦争が始まるとすぐにイギリスは植民地に大部隊を輸送し、インド人主体の8,000人が上陸した。けれどもこれらの部隊はわが軍によって攻撃され、慌ててまた船に戻らなければならなかった。しかも退却の際に2,000人の死傷者と捕虜を残してである。

けれどもこのすばらしい戦果の後勇敢な守備隊は小功に甘んずることなく、こちらからの攻撃をめざし隣接のイギリス領東アフリカに軍を進めた。先月末のロイター通信が伝えているとおり、もちろんドイツ軍はイギリス領から国境を越えて20マイル後退させられた。けれどもドイツ軍はここ

のヤシンという箇所でイギリス軍を包囲し撤退せざるを得なくしたが、その際イギリス軍は 700 人を失いうち 200 人は死亡した。

こうした輝かしい勝利からしても、われわれは東アフリカ守備隊にさらなる戦果を期待してよからう。

こうした植民地戦争の正確な姿を知るうえで大事なのは、ドイツ軍の強さに眼を注ぐことである。

ドイツのアフリカ守備隊は 1911 年には将校・下士官・兵卒 6,440 人を数え、そのうち 2,610 人がヨーロッパ人でその他が有色人だった。これにさらにかつて守備隊に所属していた 3,500 人の警察部隊が加わり、したがってドイツ帝国はアフリカにほぼ 1 万人の軍事力を持っている。この数は、予備役の教育と志願兵によってかなり強化されている。

それぞれの植民地には次のような兵力が配分されている。カメルーン：ヨーロッパ人 161、有色人 1,300、有色人の警察部隊 550。機関銃 19、大砲 10。ドイツ領南西アフリカ：兵員 2,180、警察兵 1,032。これらの部隊は、すべて騎乗のヨーロッパ人だけからなっている。こうした理由からして、彼らの装備と編成も 3 つの守備隊の中でもっとも優れている。中心部隊は騎乗した歩兵である。それに野戦砲兵中隊と山岳砲兵中隊、機関銃隊・通信隊・信号隊・鉄道隊が加わる。ある中隊はらくだに乗っている。平時でも植民地勤務は兵士の心身に大きな負担を求めるので、人材はえりすぐりである。有色人の部隊がないのは、気候がヨーロッパ人には我慢できること、そして土地の現地人を兵士に雇ってもまるで当てにならないからである。

ドイツ領東アフリカでは状況が異なる。そこの暑い熱帯気候では、より多くのヨーロッパ軍を維持していくことは不可能である。そのため最前線では現地人が勤務に着く。いわゆる土民兵で、彼らはドイツの将校や下士官の指導のもとでたいへん巧みに真価を発揮している。前に述べた大きな成果はそのよりはっきりした証明である。

守備隊は 2,800 人で、そのうちヨーロッパ人は 270 人だけである。そ

れに有色人の警察部隊 1,880 人が加わる。本来の砲兵部門はないが、さまざまな口径の何門かの大砲がある。ドイツ領南西アフリカとは反対に、ドイツ領東アフリカの部隊は馬を使わない。これは、まったく山だらけで植物が生い茂っているこの土地の自然のせいである。

ヨーロッパの戦場で対戦している何百万もの大軍に比べると、今あげた数はひどく少なく思えよう。しかし、決着は一われわれの植民地に対しても一ヨーロッパの戦場で付くと言われてはいるものの、ぎらぎらする熱帯の太陽の下



アフリカ土民兵

で極度の緊張と欠乏の中で、アフリカでドイツの榮譽のために力強く勇気を持って戦っているわれわれの勇敢な戦友たちのことを感謝と誇りをもって思うことを忘れてはならない。一度でも思い起こしてほしいのは、この小さな集団が頼みとするものは彼ら自身と新しい植民地が提供できるところわずかの資金だということである。故国からの補給は考えられず、いつもは原住民の蜂起の際にいち早く仲間を支援してきた海軍でさえ、彼らにほとんど何の援助もすることができないのだ。海軍はもっと大きな任務を果たさねばならないからである。

かりに結局はわれわれの植民地戦争は終わりを告げるにしても、今はすでに一つのことだけは知っている。われわれの勇敢な守備隊の実績は故国における仲間の守備隊に匹敵するものであることを。

日本の歴史（10）

義満は、京都の室町通りに豪華な宮殿を作った。そのため足利将軍の時代は、しばしばふつう室町時代と呼ばれている。

足利将軍は大名のいっそう強まってゆく力に対して、断固として自分を押しとおすことが十分にできなかった。見せかけの中央統治はさらに弱まり、そのうえ義満の後継者は芸術と学問を重んずるあまり本来の統治の仕事をないがしろにした。彼らの輝かしい宮廷生活は芸術と文学を盛んにした。しかし他方大名は自立を強め、結局将軍は強力な封臣から完全に遊離してしまった。将軍家での跡目争いは、1467年から77年に国土を荒廃させる内戦となった¹。それに続いて大名のたがいに所領を増やそうとする数知れない争いが相次ぎ、100年間国土はこうした争いによって荒れ果てた。それは、個人的能力だけが決め手となるような英雄の時代だった。

昨日従者だった人が今日は支配した。下層民は大変な苦しみ陥り、かつてはとても豊かだった宮廷でさえ、税金の入らない大土地所有が蔓延することでほとんど収入源がなくなり、いつも金不足に追われていた。後奈良天皇（1526 - 57年）は生計を支えようと、金のために手書きの歌集を作った。この頃（1542年²）最初のヨーロッパ人が日本にやってきて、何人かのポルトガル人が中国の海賊船で流れ着いた。彼らは日本人の知らなかった銃を持ってきていて、その製造と使用は驚くほどの早さでこの国に広まった。

つづく

1 応仁の乱

2 実は1543年

チンタオのドイツ人とともに（４）

堡壘はまもなく煙と埃の雲に満たされた。砲弾は丘の斜面を越えて音を立てて炸裂し、われわれを飛び越して、ドイツ人が街の丘の上に建てた偵察所へと行って行った。砲弾の飛行は何か他のもの以上に、大気が抵抗力のある物質であるという見方を押し付ける。傍らを飛び過ぎる砲弾は一枚のスクリーンが引き裂かれるように聞こえる。そして（明治天皇）睦仁の即位の記念日とその翌日の間大小の砲弾、榴弾と榴散弾が、ハリケーンの唸りから空き瓶の口をなでてゆく風のささやきに至るまでさまざまな音で大気を満たした。

10月31日から守備隊が降伏した11月7日の朝まで、日本軍は係留気球や飛行機からあるいは引き裂かれた前方地帯にある岩礁や丸い山頂の観察にもとづいて重砲火を浴びせた。ドイツ軍は砲弾が激しいときには弾を防ぐ避難所に逃れ、夜間と砲火が止んだときに抵抗を試みた。大砲は次々に砲弾を撃ちつくして沈黙し、塹壕と歩兵の施設は粉々に碎かれた。その間に私は町の境界内にある丘から、掘り出されたばかりの土のジグザグの線が進むのを眺めて、日本軍とイギリス軍がどこを掘り進んでいるとか、毎日堡壘に近づく様子を見ていた。

日本軍は発電所や信号所、そしてさまざまな場所に取り込んで夜になるとどこかある一点から砲火を放つ野戦砲台を破壊しようとした。そのため小さな街は計画的に砲撃された。ある午後信号所が砲火を浴びるのを見た。最後は軍旗も撃ち落とされた。しかし、それもほんのわずかの間だけだった。というのも、地下壕から兵士たちが出てきて、旗をマストに掲げたからであるが、最後には総督の命令にしたがって白旗がその代わりに上がった。別の日の午後、われわれは夕闇迫る頃ドイツ人クラブでブリッジをしていた。そのとき日本軍が発電所めがけて砲撃し、それと同時に電灯が耳に聞こえるほどの音をたてて点滅し消えたのだった。

日本軍が町を包囲したとき街はほとんどすっかり荒れ果てていた。生き

残った人々はクラブに集まった。ここには何人かの将校と非戦闘員が、几帳面に朝食と夕食と一杯のビールのために忍び込んできた。ある日朝食のとき、砲弾の唸りと爆発音がし、すぐそばをかすめたのが判った。2発がクラブからほぼ 80 m に命中し建物全体が振動した。一人があわてて机から立ち上がった。けれどももう一人がグラスを掲げ歌い始めほかの人たちもそれに和すとまた元通りの落ち着きが戻った。

街路には家を守ろうと急ぐわずかな人々も、何人かの中国人のクーリーや車夫に至るまでいなくなった。最後の 2、3 日の夜はたいいていの非戦闘員は地下室に隠れた。もちろん最後には街はかなり痛んだが、ほんのわずかの砲弾が当たただけで被害はルーヴァンに比べて少なかった。

11 月 6 日から 7 日の夜は、マイヤー・ヴァルデック閣下にとって厳しい試練だった。彼が幕僚とともに留まっていたビスマルク兵舎からは、絶えず前線の小銃と機関銃の音が聞こえ、ある箇所では日本軍はドイツ軍の塹壕の 10 m まで掘り進んできていた。11 月 7 日の早朝には、真ん中の堡壘が攻撃され、小さな黄色い兵士が堡壘と塹壕に向かって左右両側から進んだ。彼らは唯一の防御線を突破し、まだ機能している大砲を爆破しようと、砲兵が最後の鉄条網を張っていたビスマルク山をよじ登った。堡壘のひとつでは、ドイツ兵達が日本側の砲火が止み頑丈な兵營を立ち去ろうとしたとき、眼前に並ぶ日本の歩兵の小銃を目にしたのであった。総督が不利な戦いを続けたとしたら、戦いはさらに 2、3 時間は続いたろう。それは無意味なアラモと同じことになったろうし、歴史は、黄色人の侵入に対して最後の兵まで抵抗した小さな白人軍として守備隊の名を讃えたかもしれない。他方総督は、ドイツがとても苦勞して丹念に築いてきたアジアにおけるドイツの商業の一部を代表するかなりの数の人々を従えていた。結局司令部から朝早くに軍使が送られ、まだ 6 時前に、帽子に赤いリボンをつけた日本軍の小さな人々が街路に駆け込んで来て「万歳」と叫んだ。

つづく

講 座

およそ無為を宣告されている時間をも大いに活用する第一の手段は、いくつもの講座の設置だった。

まず戦争によって中断していた文官候補者³のための講座が再開されたが、これまでに終了している。

一番関心が高いのは英語の授業で、今日も4つのクラスで37人が学んでいる。

フランス語の2つの講座には17人が参加している。

個別講座でもっとも参加者が多いのは、ガーベルスベルガーの速記術で25名である。

地学の授業には20人が出席している。

一番新しい講座はドイツ語で、関心が高く20人が通っている。

もちろんどの講座も苦勞しているのは、多かれ少なかれ不足している適切な教材をどうするかである。けれどもこの点も打開できた。謄写版で英語やフランス語の文法書や読本を作ったのだ。そのうえ、まことにささやかではあるが地図帳さえも自家出版している。

図書室には英語やフランス語のいくつかの作品もあるので、読み物の最低の要求は満たせた。英語の授業に関しては、同じような段階で日本の旧制高校でよく使われている「英語研究社」⁴の本当に適切な安価な小冊子を使うことができたが、残念ながらフランス語にはそうしたものはなかった。

したがって、今では講座全体で117名が参加している。けれども名簿を一つ一つ見てみると、残念なことにひんぱんにくり返し同じ名前が出てくる。参加者がもっと広がるのが望ましかったのだが。以前の何号かでふれた歴史と商業分野の講座はまだ始まっていないが、準備中とのことである。

3 下士にして文官適任証書を得た者

4 現在の研究社の前身

礼 拝

6月15日に、所内でシュレーダー牧師による礼拝が行われる。予定は次のとおりである。

合唱曲：ベートーヴェン「自然における神の栄光」

福音書朗読

オペラ『テンプル騎士団員とユダヤ人女性』から バリトン独唱

全員合唱：「なんじの道を行け」 賛美歌 1, 2, 6, 11, 12 節

説 教

音楽：ラルゴ ヘンデル「ラルゴ」から

全員合唱：賛美歌「堅固な城」

祈 り

合唱隊と全員：オランダの感謝の祈り

所内見学

6月10日に、第11師団長である蠣崎中将がわれわれの収容所を訪れ丁寧な視察をした。たくさんの将校と師団職員が付いてきて、閣下は通訳将校である高木中尉を介してわれわれに、捕虜であることが大変なことはよく判るが冷静に我慢強く平安を保ってほしいという簡単な要望をした。

こうした要望ばかりでなく閣下は、われわれと健康状態への心のこもった関心を示した。彼は所長の松江中佐に細かなことまで尋ね、実情にとっても満足したようだった。所長はこの機会を利用し閣下に、ここに届いたロシアの検閲でひどい仕方だめになった葉書を見せた。問題になっているのは、ほとんどドイツ皇帝とヒンデンブルク陸軍元帥の肖像の付いた葉書だった。いつでも勇敢な敵に敬意を払うのは日本人の騎士的な戦争理解の

特質であり、ことにどうして君主の肖像を汚せるのかは理解できないことだった。だから松江中佐は進んでこのことを将軍に示したのだろう。そのことに関してはもちろん中佐に大いに感謝している。けれども彼が、こうしたロシアの検閲の件でわれわれがいきり立っていると考えているとしたらそれは誤りである。われわれは、今ドイツの「野蛮さ」に戦いを挑んでいるこの民族に何の期待もできないことをよく知っている。このスラヴ人には前から、まったく騎士的感情など持っているとは思っていなかった。彼らはこの 10 ヶ月前から次から次へと手ひどい敗北を喫していて、葉書を汚し憂さを晴らすことしかできないのだ。こんなことで彼らは、結局どのようにしてベルリンへの道を手に入れるのだろうか？

死亡広告

またも、仲間の一人の悲しい死をお知らせしなければならない。丸亀で、アマンドゥス・テンメ二等海兵が亡くなった。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 15 問の解答

1. Fh3 - f3 任意の手
2. D か T か S で詰み

第 16 問の解答

1. d7 - d8(L!)+ Kf5 - f4
2. Ld8 - h4 g4 x f3
3. Se5 - g6 詰み あるいは
2. g4 - g3
3. Lh4 - g5 詰み

第 15、16 問の正解は、ヴェーバー二等砲兵が送ってきた。

第 17 問

白：Kb4, Db3, Th5, La1, e8, Sf5

黒：Ke6, Td5, Be7, f6

2 手詰め

第 18 問

白：Kc3, Td5, e8, Lb7, f6, Bh2

黒：Kf3, Bc4, c5, f4

3 手詰め

養鶏場から

努力のかがあって、われわれの定評のある飼育家はついに価値のある大朝日鶏を一羽抱卵させることに成功した。したがってまもなく雛の誕生が期待できそうだ。

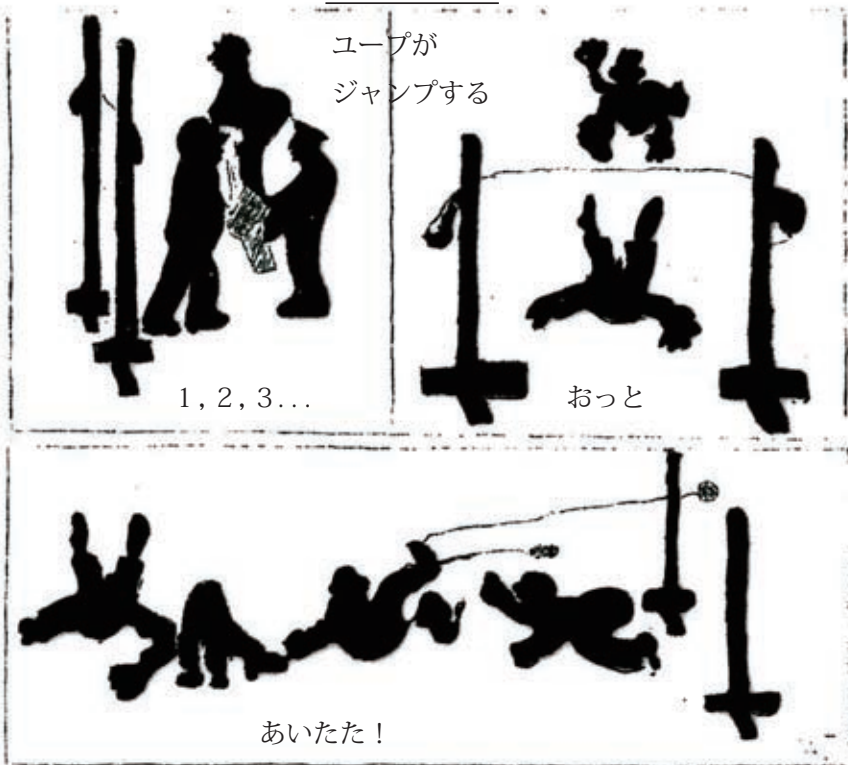
広 告

合唱の練習が、これから木曜と金曜の午前 10 時から 11 時に行われます。

一等軍楽兵曹 ハンゼン



スポーツ！





愛の贈り物

この収容所で高まったさまざまな願いを
上の人が取り上げてくれた。
そして今のところ誰もが
これまでわれわれに贈られた物で満足した。
音楽は小さな形で始まり
時とともに規模を大きくしていった
また3つの新しい楽器がやってくる。
それはわれわれには間違いなく

ありがたいことだ。

下着とほかのすばらしい物も
しょっちゅういつでも使うことができる。
そのうえ人間として必要なものを
毎月現金で買う。
化粧石鹸、刷毛、櫛
日記帳やその他もろもろ。
故国からと同じくここ外地でも
いつも小銭を送ってくれた。
だからはっきり言えるけれど
おそらくここでは誰も特に大した不満はない。
もちろんある人はこれをほかの人はあれを求め



ある人は平行棒や鉄棒などをほしがる。
他の人は贈り物として
一度に下着を3包みもほしがる。
もちろんこのようなものを本当に
誰に対しもぴったりのものを贈れるわけではない。
なぜなら誰もが
みんなのために注文したものを受け取れるわけではない。
譲り合う気持ちを
食い物にしてはいけない。
けれども何よりも
われわれにしてくれたことを思い出してみよう。
われわれが十分に受け取ってきた
寄付者のすべての贈り物に感謝しよう。
ドイツの息子たちを誇りにしている
男性や女性のことを考えてみよう。
そしていつも進んであらゆる仕方で寄付に応じ
われわれを喜ばせてくれるたゆみない手のことを。
もう一度あの人たちに心から感謝しよう。

あ り が と う



謎々！

やつは香港を出て戦場に向かい
チンタオ港外で逃走した。
というのは、会前岬砲台からの砲弾が
やつの後甲板にうまいこと穴を開けたからだ。
チンタオ陥落後はそこを離れ
さらに別の土地に移動した。
トルコにやって来て
大暴れしている、
そう新聞は伝える。
しかし、やつはあまり命中しなかったと思う。
彼の射撃がさしたるものではないことは、
チンタオで立証済みだったから。

今や彼は消え、安らかに眠っている。

冷たい水が彼を取り巻いている。

トルコ人が念入りに
すばらしい芝居を
終わらせたのだ。



和訳注：

青島沖でドイツ軍の命中弾を喰らい、その後ガリポリ沖で撃沈された、
英戦艦「トライアンフ」のこと